

どうする日本の医療

杉岡洋一

第 26 回日本医学会総会会頭・前九州大学総長

第 26 回日本医学会総会第 2 回ポストコンgress・公開シンポジウム「どうする日本の医療」が、さる 1 月 22 日、東京・有楽町のよみうりホールで開催された。国内外の医療の現状を通して日本の医療の在り方について討議され、会場に集まった約 800 人は熱心に聞き入った。

本稿では、当日行われた基調講演とパネル討議での 4 人の演者の講演内容を中心に紹介する。

(編集室)



杉岡洋一氏

日本医学会は、わが国の基礎医学・臨床医学に関する 100 に近い分科会を擁しております。4 年に 1 度、各分科会を統合して、医学の進歩の現状確認と検証をし、将来の展望・方向づけを行う場を総会と称します。そこでは、各分科会の横の連携を密にすることを 1 つの目標としています。2 年前の 4 月、福岡で、第 26 回日本医学会総会を開催いたしました。その総会は 3 万 3154 名という、日本医学会 100 年史上、最多の参加登録者を得て行われました。

その総会では、日本の医療を取り巻く問題を大きなテーマの 1 つにも取り上げました。日本の医療は、WHO(世界保健機関)

の評価によれば世界一です。その一方で、日本の医療費が 31 兆円を超え、その高騰が問題視されています。その医療費のうち介護と薬局調剤医療費、歯科診療費などを除く約 26 兆円が一般診療医療費、その 40%の約 10 兆円が薬品や手術材料に使われます。これは企業の収入ですので、残りの 16 兆円が、主に医療の現場にもたらされ、そのほとんどが人件費に使われているというのが現状です。

国民医療費の GDP 比国際比較では先進 7 カ国の中で英国と日本が最下位を競っており、米国の 1/2、OECD(経済協力開発機構)加盟の 28 カ国(現在は 30 カ国加盟)の平均よりも低いのです。つまり、日本は安い医療費で、世界一の成果をおさめていることになりましたが、残念なことに、国民の皆様方の日本の医療に対する満足度は非常に低いのも事実です。また、病床百床あたりの医師・看護師数は米国の 1/6 で、わが国の医療はある面で医療人の犠牲で成り立っているともいえます。それに



会場写真

加えて、市場原理の導入が経済界から叫ばれ、日本が世界に誇る国民皆保険制度が危うくなりつつある状況ともいえます。

日本の医療のあるべき姿を決めるのは、国民の皆様方です。私ども医療提供者でも、官僚でもありません。そこで、日本の医療の現状を正しく理解し、人間の営みとして豊かな、そして信頼に満ちた医療をどうやって実現していくかをお考えいただき、そして行動に示していただきたいのです。

なお、本シンポジウムと同タイトルを冠した単行本『どうする日本の医療』が、2005 年末に発行予定(発行＝医学書院出版サービス)。